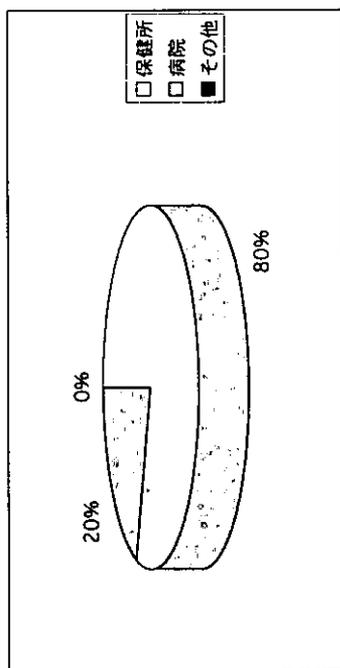


図17
抗体検査を受けた場所



MSMのセクシュアルヘルス

～性行動と予防行動～

福岡県エイズ/感染症対策研修
 (2003年12月10日実施)
 JaNP+ 代表長谷川博史

なぜMSMの顔が見えないか

- 1. 性的少数者に対する偏見 (Stigma = 差別的烙印)
- 2. 自覚しにくい抑圧 (Felt Stigma)
 - やわらかな抑圧と多面的な抑圧
 - 社会の偏見や差別的感情が最初に襲うのは告知直後の陽性者
- 3. セックスフォビア/ホモフォビア
- 4. 異性愛男性中心の性
- 5. 若者の性、女性の性、そして性的少数者の性

セクシュアリティって何だ？

(その1)

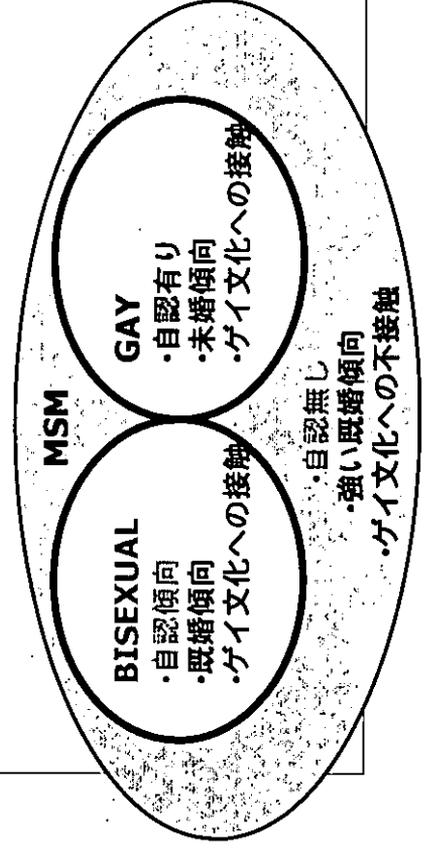
性のありよう = Sexuality

1. 生物学上の性
染色体
2. 社会的文化的性(Gender) = 生き方の性
性同一性障害、トランスジェンダー
3. 性的指向 (Sexual Orientation)
同性愛 (MSM、ゲイ)
4. 性的嗜好 (Sexual Preference)
5. 性的反応 (Sexual Reaction)

セクシュアリティって何だ？

(その2)

MSM (man who sex with men)とゲイ



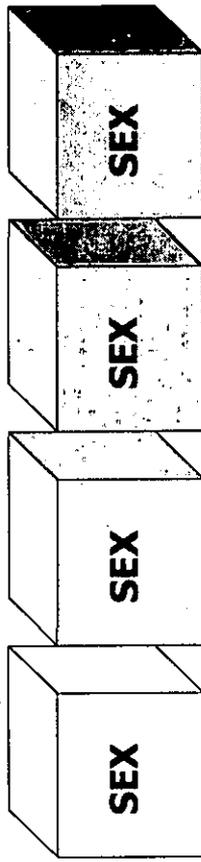
性行動の多様化

「普通」という発想の落とし穴

- 多数派からの発想
- 客観性の欠如
- 「多様な性」の理解 ～SEXって何だ?～
- 性行動の目的
- 人間の文化的営みとしての性行動
- 生殖主義を捨てれば性の本質が見える
ジェンダーにまつわる誤解
性反応にまつわる誤解

SEXに貴賤なし!

Communications Entertainment Reproduct Business



セクシュアルヘルス (性的健康)

Sexual Healthの責任の主体

- 健康であることは個人の権利であり義務ではない (権利の放棄・承諾のある傷害)
- MSMに特化した感染症が存在することの意味 (性的少数者の健康権)
- 責任は責任能力がある場合に問われる
- 完全情報と自己決定権
- 性的健康は性的権利 (Sexual Rights=基本的人権) に含まれる問題

性的健康とHIV抗体検査

～MSMの検査行動を阻害すると思われるもの(1)～

HIV感染症に関する漠然とした負のイメージ

- 死病のイメージと死の恐怖
- 病者であることの受容拒否
- 死に関する経験の欠如 (非現実感)
- 性に対する嫌悪と自らのセクシュアリティの否定
- 性感症患者としての自己イメージの低下 (性嫌悪)
- セクシュアリティ漏洩の不安 (若年・高齢者層に顕著) 被差別不安
- プライバシーの漏洩
- コミュニティ内での孤立

性的健康とHIV抗体検査

～MSMの検査行動を阻害すると思われるもの(2)～

- 現実的な生活上の不安
 - 個人生活上の不安
 - セックスを奪われる恐怖
 - 治療生活への不安
 - 経済的不安
 - 服薬・副作用によるQOLの低下
 - 社会生活への不安
 - 就業
 - 人間関係

性的健康とHIV抗体検査(2)

■ VCTの原則の徹底

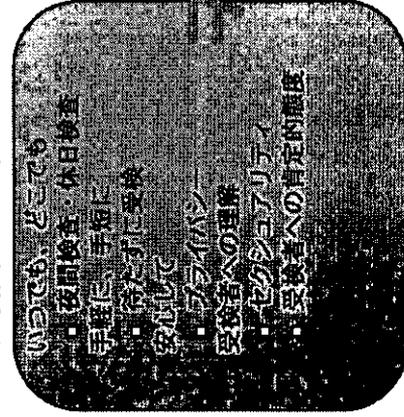
- **Voluntary(自発的)**
 - 自発的意志を損なうもの
 - ルーチン検査における自由意志
 - Informed Consent
- **Counseling(カウンセリング)**
 - 検査前、検査後の相談
- **Test(検査)**
 - プライバシー

性的健康とHIV抗体検査(3)

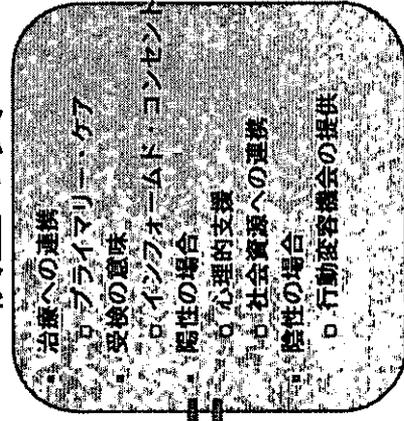
- MSMにとって受検しやすい環境
 - STI(性感染症)のひとつとして
 - 被差別不安
 - 自尊心とゲイ・アイデンティティ
 - 誰のための検査か?
 - プライバシーの保護
 - 何のための検査か?
 - Non-Judgmental(非指示的)
 - 過干渉や不適切な介入の回避

検査環境改善のために

受検しやすさ



検査の質



性的接触と感染リスク認識の例 (HIV)

※コンドーム不使用・射精あり

■危険 ■やや危険 □どちらともいえない ■たぶん安全 安全

男	性器	肛門			口			手	太股
		性器	肛門	咽	舌	唇			
性器	Petting (手コキ)	Anal Sex (器具の介入)	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (手コキ)	スマタ	
肛門	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (Fist F)	-	
咽	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting	Petting	
口	舌	舌	舌	舌	舌	舌	キス	Petting	
唇	唇	唇	唇	唇	唇	唇	キス	Petting	
手	Petting (手コキ)	Petting (Fist F)	Petting	Petting	Petting	Petting	握手	Petting	
太股	スマタ	-	Petting	Petting	Petting	Petting	Petting	?	

性的接触と感染リスク認識の例 (HIV)

※コンドーム使用

■危険 ■やや危険 □どちらともいえない ■たぶん安全 安全

男	性器	肛門			口			手	太股
		性器	肛門	咽	舌	唇			
性器	Petting (手コキ)	Anal Sex (器具の介入)	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (手コキ)	スマタ	
肛門	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (Fist F)	-	
咽	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting	Petting	
口	舌	舌	舌	舌	舌	舌	キス	Petting	
唇	唇	唇	唇	唇	唇	唇	キス	Petting	
手	Petting (手コキ)	Petting (Fist F)	Petting	Petting	Petting	Petting	握手	Petting	
太股	スマタ	-	Petting	Petting	Petting	Petting	Petting	?	

性的接触と感染リスク認識例 (梅毒)

※コンドーム不使用・射精あり

■危険 ■やや危険 □どちらともいえない ■たぶん安全 安全

男	性器	肛門			口			手	太股
		性器	肛門	咽	舌	唇			
性器	Petting (手コキ)	Anal Sex (器具の介入)	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (手コキ)	スマタ	
肛門	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (Fist F)	-	
咽	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting	Petting	
口	舌	舌	舌	舌	舌	舌	キス	Petting	
唇	唇	唇	唇	唇	唇	唇	キス	Petting	
手	Petting (手コキ)	Petting (Fist F)	Petting	Petting	Petting	Petting	握手	Petting	
太股	スマタ	-	Petting	Petting	Petting	Petting	Petting	?	

性的接触と感染リスク認識例 (梅毒)

※コンドーム使用

■危険 ■やや危険 □どちらともいえない ■たぶん安全 安全

男	性器	肛門			口			手	太股
		性器	肛門	咽	舌	唇			
性器	Petting (手コキ)	Anal Sex (器具の介入)	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (手コキ)	スマタ	
肛門	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting (Fist F)	-	
咽	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	フェラチオ	Petting	Petting	
口	舌	舌	舌	舌	舌	舌	キス	Petting	
唇	唇	唇	唇	唇	唇	唇	キス	Petting	
手	Petting (手コキ)	Petting (Fist F)	Petting	Petting	Petting	Petting	握手	Petting	
太股	スマタ	-	Petting	Petting	Petting	Petting	Petting	?	

性的接触と感染リスク認識例 (HAV)

※コンドーム不使用・射精あり

■危険 ■やや危険 □どちらともいえない □たぶん安全 安全

男	性器	肛門	口			手	太股
			咽	舌	唇		
性器	Petting (手コキ)	Anal Sex (器具の 介入)	フェラチオ オ	フェラチオ オ	フェラチオ オ	Petting (手コキ)	スマク
肛門	フェラチオ オ	-	フェラチオ オ	フェラチオ オ	Petting (フェラ)	-	-
咽	フェラチオ オ	-	-	-	Petting	Petting	Petting
口	フェラチオ オ	フェラチオ オ	フェラチオ オ	フェラチオ オ	Petting	Petting	Petting
唇	フェラチオ オ	フェラチオ オ	フェラチオ オ	フェラチオ オ	Petting	Petting	-
手	Petting (手コキ)	Petting (フェラ)	Petting	Petting	握手	Petting	Petting
太股	スマク	-	Petting	Petting	Petting	-	?

性的健康増進のための支援行動

～他人の下半身は指導・教育できない～

健康増進行動

知る
認識する
欲求する
決意する
行動する
維持

支援行動

情報提供
相談
動機付け
機会提供
環境改善
励まし

予防行動のための環境改善 (1)

知識・認識

- 訴求対象に合った情報提供
- 客観的な事実の提供
 - Stigmaを強化する可能性
 - 検査忌避や治療姿勢形成不良
- 非指示的 (Non Judgmental)
 - Sexに対する肯定的な姿勢
- 訴求力のあるメッセージ
 - リアリティと説得力

予防行動のための環境改善 (2)

欲求・決意

- 行動を変えざる積極的理由
- クライアントの自尊心の向上
 - ピア・プレッシャーからの解放
 - 脅しでは行動は変化しない
- 健康増進の主体としての自覚
 - 自己決定能力の向上
- セックスに対する狭い考え方からの解放

これが難しい!

予防行動のための環境改善（3）

行動・維持

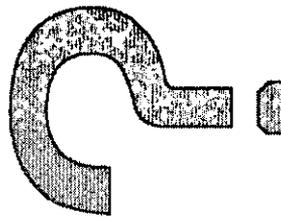
- 柔軟な発想による多様な選択肢の提供
- 自分なりの行動ガイドライン決定の機会
- セックスパートナーとの交渉能力の育成機会
- 予防ツールの入手しやすさ
 - ・ コンドーム、ローション、他
- セーフアーマーセックスイメージの変化

セーフアーマーセックスもいろいろ

コンドーム装着だけがセーフアーマーセックス？

- 自分がどこまでリスクを引き受けられるかには個人差がある
 - 何が危険でその結果に自分がどんな責任を負えるか→オラールセックスと感染リスク
- 完全情報
 - ・ 自分がどこまで現実を認識しているか？
- ラテックスアレルギー

おわりに...



人間の性を理解するには

まず自分の常識に「？」（疑問）を

持つことから始めましょう！

大阪地域における MSM に対する短期的コンドームアウトリーチの効果

分担研究者	木村博和(横浜市立大学医学部公衆衛生学) 鬼塚哲郎(MASH 大阪/京都産業大学)
研究協力者	辻 宏幸(MASH 大阪) 松原 新(MASH 大阪)
主任研究者	市川誠一(名古屋市立大学大学院)

研究要旨

大阪地域の MSM を対象とした HIV 予防啓発プロジェクト(MASH 大阪)が、コンドームの使用と購入の増加を目標として、2002 年より開始した街頭やゲイバーなどでのコンドームアウトリーチ(コンドーム大作戦 part2)の短期的な効果の評価するため、質問紙調査を実施し、コンドーム受取経験と関連する要因について検討した。4 カ月間に約 80 軒のゲイバーを通じて、約 13,000 個のコンドームを継続して配布することにより、北区堂山地区の MSM のコンドーム受取経験は 1.5 倍に増加した。携帯用出会い系サイト利用者の街頭等での受取経験は利用しない人の 2.9 倍であった。大阪府内の居住者に対してはゲイバーでの配布が効率的であった。過去に MASH の予防啓発プログラムに参加した人の方が、ゲイバーでの受取経験が 2.5 倍多かった。今回の調査からコンドームの使用や購入の変化を示唆する結果は認められなかった。本アウトリーチプログラムは調査後も継続中であり、今後、調査、分析方法を検討した上で、長期的な実施の効果についても評価していく必要がある。

A. 背景と目的

大阪地域では 1999 年からゲイ男性らのボランティアと行政や研究者との協働により、MSM(men who have sex with men)を対象とした HIV 予防啓発プロジェクト(MASH 大阪)が進められている。2002 年からはコンドームの使用と購入の増加を目標としたコンドームアウトリーチプログラム(コンドーム大作戦 part2)を開始した。本プログラムは MSM への啓発のために独自にデザインしたパッケージのコンドームをゲイバーやクラブイベント、街頭で配布するもので、3 月から大阪市北区堂山地区の街頭やクラブイベントで、7 月からは北区堂山と中央区難波地区(ミナミ)のゲイバーを通じて、啓発コンドームを配布している。

HIV/STI 予防の啓発を目的としたコンドーム配布は、一般に広く普及した啓発プログラムのひとつであるが、その効果や影響について検討した報告はわが国ではほとんどみられない。そこで本研究班では、同プロジェクト開始後、2 回の MSM を対象とした質問紙調査を実施し、そのデータから啓発コンドームの受取経験とコンドームの購入や使用、性行動などとの関連を

分析することにより、コンドームアウトリーチプログラムの効果について検討した。

B. 研究方法

1. 調査方法

データの収集は、独自の質問紙による無記名の自記式質問紙調査により行った。

調査時期は 2002 年 8 月と 11 月の 2 回、対象者は、1 回目の調査では週末に堂山地区のクラブ周辺を通行する男性、2 回目の調査では週末に開催されたクラブイベント参加者とした。

調査項目は、8 月調査では①性行動関係 9 項目、②HIV/STI 予防行動関係 8 項目、③MASH 大阪のプログラム関係 8 項目、④エイズ予防に対する意識 1 項目、⑤人の属性他 4 項目の合計 30 項目とし、11 月では①性行動関係 11 項目、②HIV/STI 予防行動関係 10 項目、③MASH 大阪のプログラム関係 8 項目、④エイズ予防に対する意識 2 項目、⑤人の属性他 5 項目、⑥エイズ検査関係 8 項目、⑦HIV/STI の

知識関係 3 項目の合計 47 項目とした。

調査実施においては、MASH 大阪のスタッフが調査対象者に口頭で調査趣旨の説明と協力を依頼し、質問紙を配布。その場で回答を記入してもらい、用紙を回収した。回収数は 8 月が 331 人、11 月が 467 人の合計 798 人であった。

2. 分析方法

分析対象者は、質問紙の回答から MSM と判定した人(セクシャリティをゲイまたはバイセクシャルと回答した人、あるいは過去に男性とセックスの経験があると回答した人合計 739 人)のうち、過去 6 カ月間に男性とのアナルセックスの経験があると回答した 467 人(MSM の 63.2%)とした。

受取経験との関連の分析対象とした調査項目は、2 回の調査に共通した 29 項目とした。このためエイズ検査関係や HIV/STI の知識関係の項目は今回の分析対象から除外した。対象とした調査項目のうち、性行動に関する過去 6 カ月間の利用施設と、過去に MASH 大阪が実施した予防啓発プログラムへの参加経験に関する項目については、複数の項目から 2 次的項目を作成した。利用施設については、サウナ系、マンション系、BOX 系の 3 種類のハッテン場の利用の有無から「商業系ハッテン場利用種数」という新たな項目を、また携帯用、パソコン用の 2 種類の出会い系サイトの利用状況から「出会い系サイト利用種数」という項目を作成した。予防プログラムの参加経験については、2000 年から 2002 年の 5 月のゴールデンウィークに開催した 3 回の臨時 HIV/STD 検査・予防相談イベント (SWITCH2000、2001、G-SWITCH2002) への参加経験から「いずれかの SWITCH」という項目を、1999 年から 2002 年の間に MASH 大阪が主催したワークショップ形式の STD 勉強会とトークライブ形式の勉強会 (Café Prevent) の参加経験から「いずれかの勉強会」という項目を、MASH 大阪の主催するエイズ予防啓発クラブイベント (basement-g) といずれかの SWITCH といずれかの勉強会への参加経験から「MASH 大阪の予防プログラム」という項目を作成した。回答者の居住地は大阪府内、その他の近畿(滋賀、京都、兵庫、和歌山)、その他地域の 3 群に分類した。

受取経験については、大阪市北区堂山地区のゲイバーでの受取経験と、同地区クラブ周辺の街頭やクラブイベントでの受取経験の 2 種類に区別した。

各調査項目と受取経験の関連についての検討は、項目のカテゴリ別に受取経験の割合を算出し、それを各カテゴリ間で比較することにより検討した。比較に際しては χ^2 検定を行い p 値を求め、それが小さい項目(概ね 0.2 以下)を、コンドーム受取経験の関連因子の候補とした。さらに関連因子の候補間の相互の影響を多重ロジスティック回帰分析により調整して有意水準 5%未満の調査項目を関連因子と判定した。また関連の強さの指標としてオッズ比とその 95%信頼区間を推計した。

これらの集計と検定にはパソコン用統計解析ソフト HALBAU for Windows Ver.5.41(現代数学社、京都、2001)と SPSS for Windows Ver.10.0.5J(エス・ピー・エス・エス社、東京、1999)を使用した。

C. 研究結果

1. ゲイバーでの受取経験との関連因子

表 1 に、ゲイバーで啓発コンドームを受け取った経験のある人の人数と割合を、各調査項目のカテゴリ別に示した。このうち関連因子の候補として、①性行動関係 1 項目、③MASH 大阪のプログラム関係 10 項目、⑤人の属性他 3 項目合計 14 項目を選出したが、HIV/STI 予防行動関係(コンドームの購入経験やアナルセックス時の使用頻度など)やエイズ予防に対する意識(将来の自身の HIV 感染の可能性)では関連を認めず、候補として検討しなかった。

表 2 に最終的に残った関連因子 5 項目のオッズ比と 95%信頼区間を示す。調査期間別の受取経験は 2002 年 8 月から 11 月の間に約 1.5 倍に増加した。居住地別の受取経験は、大阪居住者に比べてその他近畿居住者で 30%余り少なく、その他地域の居住者では 75%少なかった。セクシャリティ別にみると、「ゲイ」と回答した人より「バイセクシャル」と回答した人の方が 70%余り少なかった。過去のプログラム参加別の受取経験は、勉強会または SWITCH に参加したことのある人では、参加したことのない人より 2.5 倍多かった。街頭やクラブイベントでの受取経験との相互の関連を検討してみると、街頭等での受取経験がある人では、ゲイバーでの受取経験が 50%余り少なかった。

2. 街頭やイベントでの受取経験との関連因子

表 3 に、街頭やクラブイベントで啓発コンドームを

受け取った経験のある人の人数と割合を、各調査項目の 카테고리別に示した。このうち関連因子の候補として、①性行動関係 6 項目、②HIV/STI 予防行動関係 2 項目、③MASH 大阪のプログラム関係 10 項目、⑤人の属性他 2 項目の合計 20 項目を選出した。調査時期やエイズ予防に対する意識(将来の自身の HIV 感染の可能性)では関連を認めず、候補として検討しなかった。

表 4 に最終的に残った関連因子 5 項目のオッズ比と 95%信頼区間を示す。年齢階級別に受取経験を比較すると、10 代後半に比べて 20 代や 30 代の方が 4~5 倍が多かった。居住地別では、大阪居住者とその他の近畿居住者の受取経験は変わらなかったが、その他地域の居住者の受取経験は 60% 余り少なかった。利用施設別の受取経験では、携帯電話用の出会い系サイトを過去 6 カ月間に利用した人の方が 2.9 倍多かった。

D. 考察

MASH 大阪が 2002 年 3 月に開始したコンドームアウトリーチプログラム(コンドーム大作戦 part2)は、主にふたつの方法でコンドームを配布している。ひとつは週末の夜間に、北区堂山地区のクラブ周辺で、3~4 人のスタッフが手渡しで配布する方法(街頭での配布)、もうひとつは北区堂山地区と中央区難波地区(ミナミ)のゲイバーのうち協力の得られた店舗に専用のコンドームディスペンサーを設置して配布する方法(ゲイバーでの配布)である。今回の調査時点では、ミナミでの配布がまだ本格化していなかったため、堂山地区の受取状況についてのみ調査した。

ゲイバーでの配布開始は 7 月からであり、2 回目の調査まで 4 カ月しか経過しておらず、短期間の配布の効果を検討したことになる。

調査時期との関連についてみると、ゲイバーでの受取経験との関連は調整後も有意であったのに対し、街頭等での受取経験との間に有意な関連は認められなかった。このような配布方法による違いが生じた理由のひとつに、調査期間中のコンドーム配布数が大きく異なっていたことが考えられる。

ゲイバーでは 8 月の調査直前の 7 月から配布を開始し、同月約 8,500 個のコンドームを約 80 件の店舗に配布し、その後 11 月の調査までに約 13,000 個を配布した。一方、街頭では 3 月から 8 月の調査まで

に約 3,300 個を配布したが、11 月の調査までの配布数は 400 個ほどに停まったため、街頭での受取経験が増加しなかったのではないかと考えられる。

堂山地区のゲイバーでの受取経験は、約 80 軒の店舗を通じて 1 カ月あたり約 3,000 個のコンドームを 4 カ月間配布し続けることによって、1.5 倍に増加したと考えられる。

コンドームの入手や購入の経験、使用頻度については受取経験との間に統計的に有意な関連を認めなかった。今回の統計的検出力を考慮すれば、これが直ちに無関係であることを示唆するわけではない。しかし関連が認められなかった理由は今回の調査からは明らかでない。もし関連があるとすれば、このような結果になった理由として、コンドームの購入や使用頻度が変わるまでには更に時間を要する、調査規模がコンドームの配布規模に比して相対的に小さかったことなどが考えられる。

性行動との関連をみると、街頭では携帯用出会い系サイト利用者との関連が認められたが、ゲイバーで有意な関連が認められなかった。携帯電話を使った出会い系サイトへのアクセスは若年層ほど多い傾向にあるが、このような年齢の影響を調整した後も関連が認められたことから、年齢とは無関係に携帯用出会い系サイト利用者には街頭での受取経験が多いことが示唆された。このような関連が認められた理由として、街頭やクラブイベントでの配布が週末の夜間に限られていたことから、もし携帯用出会い系サイト利用者がその時に来所することが多ければ、受け取る機会も多くなったと考えられる。しかし出会い系サイト利用者の行動に関する正確な情報はほとんど存在しないため、この理由も仮説の域を出ない。これら利用者に対する予防啓発の必要性から考えても、その実態を把握することは今後の大きな課題であろう。

居住地との関係をみた場合、大阪居住者の受取経験は、ゲイバーでも、街頭やクラブイベントでも、その他の居住者より有意に高かった。ゲイバーと街頭等での受取割合を比較するとゲイバーの方が高いことから(表 1、3)、ゲイバーでの配布がより効果的と考えられることができる。一方、その他の近畿居住者の街頭での受取経験は大阪居住者とほぼ同じであった。有意差なしという結果から両者が変わらないと断定することはできないが、変わらないという結果が生じる理由として、週末夜間の堂山に大阪以外の近畿の来所者が多いこと、今回の調査がクラブイベント参加者を

対象としたもので、ゲイバーの顧客に直接調査していないため、ゲイバーには行くがクラブには行かないという特定の集団の情報が得られなかったことなどが考えられる。過去の研究班の調査からクラブイベント参加者のゲイバー利用率は 80~90%と高いため本調査からもその概要を十分に把握できると思われるが、ゲイバーの顧客層をアウトリーチの対象者としていること、効果評価の詳細な分析を行う必要があることを考えると、今後このような顧客層を対象とした情報収集が必要となるであろう。

過去のプログラムへの参加経験との関係を見ると、ゲイバーでは過去の勉強会と SWITCH のいずれかの参加経験との間に、街頭やクラブイベントでは basement-g と SWITCH2001 の参加経験との間に関連が認められた。basement-g や SWITCH ではそれ自体が HIV 予防啓発イベントであり啓発コンドームを配布してきたことから関連が認められたのは当然であるが、ゲイバーでの関連については、これらプログラムへの参加経験がコンドームへの関心を高める方向に働いた可能性があること、これらの参加経験者は元来 HIV/STI 予防に対して関心が高い可能性があることなどが考えられる。しかし今回の調査デザインが断面調査を繰り返すことにより集団の変化を観察するという手法を採っており、個人の変化を把握することは不可能であることから、どちらの理由が大きいかを判断するのは困難である。各プログラムの正確な効果評価のためには、参加者の情報を継続的に収集することによって個人の変化を把握するような調査が、今後益々必要になっていくであろう。

アウトリーチの方法の相互の関係についてみると、ゲイバーでの受取経験との間には街頭での受取経験との関連が認められた。しかしその逆、つまり街頭での受取経験との間にゲイバーでの受取経験との関連が認められなかった。このように相互の関係が一致しなかった理由としては、この相互の関連の強さが弱

くて同時に検討する調査項目の影響を受けやすく、安定した結果が得られにくかったこと、調査対象者がクラブイベント参加者に限られていたことなどが考えられる。調査方法や分析方法の検討は今後の大きな課題であるが、もし今回の結果を考慮するなら、ふたつの配布方法が相互に補完し合っている可能性について注意を払うべきであろう。

E. 結論

MASH 大阪が 2002 年に開始したコンドームアウトリーチプログラムの効果について検討した。ゲイバーでの受取経験の拡大や、携帯用出会い系サイト利用者での街頭での受取経験の多いことなどから、性行動が活発な対象者に啓発が届いたことを示唆する結果は認められたが、行動の変化を示唆する結果は認められなかった。今後、ゲイバーの顧客層の調査や、啓発対象者の追跡調査、出会い系サイト利用者の実態把握などの調査方法について検討し、本調査の後も継続するプログラムの効果について評価し、より効果的な予防啓発プログラムを開発するための基礎資料としていく必要がある。

F. 研究発表

学会発表

1. 木村博和、市川誠一、鬼塚哲郎、辻宏幸、松原新: MSM に対する大阪地域でのコンドームアウトリーチの効果, 第 17 回日本エイズ学会学術集会, 2003 年 11 月, 神戸

表1 調査項目の各カテゴリー別にみたゲイバーでの受取経験の状況

調査項目	登山ゲイバーでの啓発コンドームの受取経験			p値
	あり (%)	なし (%)	合計 (%)	
調査時期				0.04322
2003年 8月	93 (44.1)	118 (55.9)	211 (100)	
11月	138 (53.9)	118 (46.1)	256 (100)	
合計	231 (49.5)	236 (50.5)	467 (100)	
年齢				0.52013
15～19歳	10 (52.6)	9 (47.4)	19 (100)	
20～24歳	72 (49.7)	73 (50.3)	145 (100)	
25～29歳	67 (45.3)	81 (54.7)	148 (100)	
30～34歳	46 (52.3)	42 (47.7)	88 (100)	
35～39歳	24 (54.5)	20 (45.5)	44 (100)	
40歳以上	7 (46.7)	8 (53.3)	15 (100)	
合計	226 (49.2)	233 (50.8)	459 (100)	
居住地				0.00000
大阪府内	155 (58.5)	110 (41.5)	265 (100)	
その他の近畿	56 (44.1)	71 (55.9)	127 (100)	
その他	19 (26.4)	53 (73.6)	72 (100)	
合計	230 (49.6)	234 (50.4)	464 (100)	
セクシャリティ				0.00485
ゲイ	217 (52.3)	198 (47.7)	415 (100)	
バイセクシャル	11 (26.8)	30 (73.2)	41 (100)	
その他	3 (33.3)	6 (66.7)	9 (100)	
合計	231 (49.7)	234 (50.3)	465 (100)	
利用施設/6M				
サウナ系ハッテン場	101 (50.5)	99 (49.5)	200 (100)	0.79928
マンション系ハッテン場	53 (47.7)	58 (52.3)	111 (100)	0.74035
BOX系ハッテン場	26 (54.2)	22 (45.8)	48 (100)	0.60306
野外系ハッテン場	31 (55.4)	25 (44.6)	56 (100)	0.43490
PC用出合い系サイト	82 (52.2)	75 (47.8)	157 (100)	0.47143
携帯用出合い系サイト	60 (42.6)	81 (57.4)	141 (100)	0.05811
合計	231 (49.6)	235 (50.4)	466 (100)	
商業系ハッテン場利用種類数				0.63683
なし	101 (49.0)	105 (51.0)	206 (100)	
1種類	87 (50.0)	87 (50.0)	174 (100)	
2種類以上	43 (50.0)	43 (50.0)	86 (100)	
合計	231 (49.6)	235 (50.4)	466 (100)	
出合い系サイト利用種類数				0.95939
なし	130 (52.0)	120 (48.0)	250 (100)	
1種類	60 (44.8)	74 (55.2)	134 (100)	
2種類	41 (50.0)	41 (50.0)	82 (100)	
合計	231 (49.6)	235 (50.4)	466 (100)	
男性とのセックス経験/6M				
あり	231 (49.5)	236 (50.5)	467 (100)	
男性とのアナルセックス経験/6M				
あり	231 (49.5)	236 (50.5)	467 (100)	
特定相手とのコンドーム使用頻度				0.41130
なし・不明	64 (54.7)	53 (45.3)	117 (100)	
まちまち	55 (55.0)	45 (45.0)	100 (100)	
必ず使用	82 (46.9)	93 (53.1)	175 (100)	
合計	201 (51.3)	191 (48.7)	392 (100)	
不特定相手とのコンドーム使用頻度				0.75562
なし・不明	21 (53.8)	18 (46.2)	39 (100)	
まちまち	35 (47.9)	38 (52.1)	73 (100)	
必ず使用	77 (47.5)	85 (52.5)	162 (100)	
合計	133 (48.5)	141 (51.5)	274 (100)	
予防行動経験/1Y				
購入経験	166 (49.6)	169 (50.4)	335 (100)	0.93495
入手経験	171 (49.4)	175 (50.6)	346 (100)	0.63114
アナル時のゴム使用	181 (47.6)	199 (52.4)	380 (100)	0.90540
予防のための工夫	189 (48.3)	202 (51.7)	391 (100)	1.00000
合計	207 (48.4)	221 (51.6)	428 (100)	
啓発コンドーム受取経験				
いずれかで受取あり	231 (68.3)	107 (31.7)	338 (100)	0.00000
街頭・クラブで	87 (45.8)	103 (54.2)	190 (100)	0.22193
各プログラムの参加経験				
basement-g	53 (58.9)	37 (41.1)	90 (100)	0.05791
いずれかのSWITCH	67 (63.2)	39 (36.8)	106 (100)	0.00172
いずれかの勉強会(Café Preventを含む)	21 (61.8)	13 (38.2)	34 (100)	0.18520
STD勉強会	10 (52.6)	9 (47.4)	19 (100)	0.95430
Café Prevent	16 (69.6)	7 (30.4)	23 (100)	0.07601
SWITCH2000	24 (60.0)	16 (40.0)	40 (100)	0.21392
SWITCH2001	34 (60.7)	22 (39.3)	56 (100)	0.09493
G-SWITCH2002	47 (66.2)	24 (33.8)	71 (100)	0.00314
合計	230 (49.4)	236 (50.6)	466 (100)	
MASH大阪の予防プログラムへの参加経験				0.00022
すべてなし	140 (43.5)	182 (56.5)	322 (100)	
いずれかあり	90 (62.5)	54 (37.5)	144 (100)	
合計	230 (49.4)	236 (50.6)	466 (100)	
SWITCH・勉強会への参加経験				0.00083
いずれもなし	153 (44.2)	193 (55.8)	346 (100)	
SWITCHのみ	56 (64.4)	31 (35.6)	87 (100)	
勉強会あり	21 (63.6)	12 (36.4)	33 (100)	
合計	230 (49.4)	236 (50.6)	466 (100)	
S-SWITCH2002	24 (68.6)	11 (31.4)	35 (100)	0.09087
合計	138 (53.9)	118 (46.1)	256 (100)	
将来のHIV感染の可能性				0.56581
絶対ない	17 (44.7)	21 (55.3)	38 (100)	
ほとんどない	48 (43.6)	62 (56.4)	110 (100)	
五分五分	78 (52.7)	70 (47.3)	148 (100)	
十分ある	58 (52.7)	52 (47.3)	110 (100)	
わからない	29 (48.3)	31 (51.7)	60 (100)	
合計	230 (49.4)	236 (50.6)	466 (100)	

表2 堂山ゲイバーにおける啓発コンドーム受取経験との関連因子の調整オッズ比

関連因子	カテゴリー名	オッズ比	95%信頼区間	p値
調査時期	2003年 8月	1		0.02971
	11月	1.547	(1.044 , 2.292)	
居住地域	大阪府内	1		0.00002
	その他の近畿	0.676	(0.432 , 1.057)	
	その他	0.242	(0.133 , 0.442)	
セクシャリティ	ゲイ	1		0.00399
	バイセクシャル	0.289	(0.136 , 0.613)	
	その他	0.518	(0.122 , 2.189)	
MASH大阪の勉強会またはSWITCHへの参加	経験なし	1		0.00016
	あり	2.488	(1.550 , 3.994)	
街頭・クラブ等での啓発コンドームの受取	経験なし	1		0.00048
	あり	0.472	(0.309 , 0.719)	

表3 調査項目の各カテゴリー別にみた街頭やクラブイベントでの受取経験の状況

調査項目	街頭・クラブイベントでの受取経験			P値
	あり (%)	なし (%)	合計 (%)	
調査時期				0.90146
2003年 8月	87 (41.2)	124 (58.8)	211 (100)	
11月	103 (40.2)	153 (59.8)	256 (100)	
合計	190 (40.7)	277 (59.3)	467 (100)	
年齢				0.00015
15～19歳	5 (26.3)	14 (73.7)	19 (100)	
20～24歳	72 (49.7)	73 (50.3)	145 (100)	
25～29歳	69 (46.6)	79 (53.4)	148 (100)	
30～34歳	33 (37.5)	55 (62.5)	88 (100)	
35～39歳	5 (11.4)	39 (88.6)	44 (100)	
40歳以上	5 (33.3)	10 (66.7)	15 (100)	
合計	189 (41.2)	270 (58.8)	459 (100)	
居住地				0.00559
大阪府内	117 (44.2)	148 (55.8)	265 (100)	
その他の近畿	55 (43.3)	72 (56.7)	127 (100)	
その他	17 (23.6)	55 (76.4)	72 (100)	
合計	189 (40.7)	275 (59.3)	464 (100)	
セクシャリティ				0.95145
ゲイ	169 (40.7)	246 (59.3)	415 (100)	
バイセクシャル	16 (39.0)	25 (61.0)	41 (100)	
その他	4 (44.4)	5 (55.6)	9 (100)	
合計	189 (40.6)	276 (59.4)	465 (100)	
利用施設/6M				
サウナ系ハッテン場	89 (44.5)	111 (55.5)	200 (100)	0.15928
マンション系ハッテン場	54 (48.6)	57 (51.4)	111 (100)	0.04670
BOX系ハッテン場	21 (43.8)	27 (56.3)	48 (100)	0.74868
野外系ハッテン場	33 (58.9)	23 (41.1)	56 (100)	0.00451
PC用出会い系サイト	66 (42.0)	91 (58.0)	157 (100)	0.71579
携帯用出会い系サイト	75 (53.2)	66 (46.8)	141 (100)	0.00038
合計	189 (40.6)	277 (59.4)	466 (100)	
商業系ハッテン場利用種類数				0.11443
なし	76 (36.9)	130 (63.1)	206 (100)	
1種類	70 (40.2)	104 (59.8)	174 (100)	
2種類以上	43 (50.0)	43 (50.0)	86 (100)	
合計	189 (40.6)	277 (59.4)	466 (100)	
出会い系サイト利用種類数				0.02525
なし	92 (36.8)	158 (63.2)	250 (100)	
1種類	53 (39.6)	81 (60.4)	134 (100)	
2種類	44 (53.7)	38 (46.3)	82 (100)	
合計	189 (40.6)	277 (59.4)	466 (100)	
特定相手とのコンドーム使用頻度				0.54381
なし・不明	44 (37.6)	73 (62.4)	117 (100)	
まちまち	45 (45.0)	55 (55.0)	100 (100)	
必ず使用	72 (41.1)	103 (58.9)	175 (100)	
合計	161 (41.1)	231 (58.9)	392 (100)	
不特定相手とのコンドーム使用頻度				0.02335
なし・不明	10 (25.6)	29 (74.4)	39 (100)	
まちまち	26 (35.6)	47 (64.4)	73 (100)	
必ず使用	77 (47.5)	85 (52.5)	162 (100)	
合計	113 (41.2)	161 (58.8)	274 (100)	
予防行動経験/1Y				
購入経験	138 (41.2)	197 (58.8)	335 (100)	0.90026
入手経験	156 (45.1)	190 (54.9)	346 (100)	0.08204
アナル時のゴム使用	159 (41.8)	221 (58.2)	380 (100)	
予防のための工夫	166 (42.5)	225 (57.5)	391 (100)	0.71168
合計	180 (42.1)	248 (57.9)	428 (100)	
啓発コンドーム受取経験				
いずれかで受取あり	190 (56.2)	148 (43.8)	338 (100)	0.00000
堂山ゲイバーであり	87 (37.7)	144 (62.3)	231 (100)	0.22193
合計	190 (40.7)	277 (59.3)	467 (100)	
ミナミのゲイバーであり	12 (54.5)	10 (45.5)	22 (100)	0.25705
各プログラムの参加経験				
basement-g	68 (75.6)	22 (24.4)	90 (100)	0.00000
いずれかのSWITCH	40 (75.5)	13 (24.5)	53 (100)	0.00000
いずれかの勉強会(Café Preventを含む)	23 (67.6)	11 (32.4)	34 (100)	0.00158
STD勉強会	12 (63.2)	7 (36.8)	19 (100)	0.07030
Café Prevent	17 (73.9)	6 (26.1)	23 (100)	0.00179
SWITCH2000	29 (72.5)	11 (27.5)	40 (100)	0.00004
SWITCH2001	44 (78.6)	12 (21.4)	56 (100)	0.00000
G-SWITCH2002	48 (67.6)	23 (32.4)	71 (100)	0.00000
合計	189 (40.6)	277 (59.4)	466 (100)	
S-SWITCH2002	23 (65.7)	12 (34.3)	35 (100)	0.00179
合計	103 (40.2)	153 (59.8)	256 (100)	
MASH大阪の予防プログラムへの参加経験				0.00000
いずれもなし	96 (29.8)	226 (70.2)	322 (100)	
basement-gのみあり	16 (66.7)	8 (33.3)	24 (100)	
SWITCHあり	54 (62.8)	32 (37.2)	86 (100)	
勉強会あり	23 (67.6)	11 (32.4)	34 (100)	
合計	189 (40.6)	277 (59.4)	466 (100)	
SWITCH・勉強会への参加経験				
いずれもなし	112 (32.4)	234 (67.6)	346 (100)	
SWITCHのみ	55 (63.2)	32 (36.8)	87 (100)	
勉強会あり	22 (66.7)	11 (33.3)	33 (100)	
合計	189 (40.6)	277 (59.4)	466 (100)	
将来のHIV感染の可能性				0.52442
絶対ない	19 (50.0)	19 (50.0)	38 (100)	
ほとんどない	47 (42.7)	63 (57.3)	110 (100)	
五分五分	61 (41.2)	87 (58.8)	148 (100)	
十分ある	42 (38.2)	68 (61.8)	110 (100)	
わからない	20 (33.3)	40 (66.7)	60 (100)	

表4 街頭やクラブ等における啓発コンドーム受取経験との関連因子の調整オッズ比

関連因子	カテゴリー名	オッズ比	95%信頼区間	p値
年齢階級	15～19歳	1		0.00222
	20～24歳	5.273	(1.593 , 17.453)	
	25～29歳	5.418	(1.602 , 18.330)	
	30～34歳	4.087	(1.157 , 14.434)	
	35歳以上	1.483	(0.372 , 5.917)	
居住地域	大阪府内	1		0.00771
	その他の近畿	1.146	(0.708 , 1.857)	
	その他	0.373	(0.190 , 0.732)	
携帯用出会い系サイトの利用/6M	経験なし	1		0.00001
	あり	2.945	(1.831 , 4.737)	
basement-gへの参加	経験なし	1		0.00000
	あり	4.519	(2.450 , 8.336)	
SWITCH2001への参加	経験なし	1		0.00157
	あり	3.492	(1.609 , 7.581)	

予防啓発の評価に関する研究

分担研究者:木村博和(横浜市立大学医学部公衆衛生学)

研究協力者:市川誠一、佐藤未光(RainbowRing/MASH 東京・代表)、鬼塚哲郎(京都産業大学/MASH 大阪・代表)

研究要旨

新宿地区、大阪地区でクラブイベント参加者を対象に共通項目による質問票調査を実施した(分析数:新宿 532、大阪 611)。新宿地区の調査では、施設等の利用状況はゲイバーが 79.4%、商業系ハッテン場 41.4%、出会い系サイト 51.6%であった。アナルセックス時のコンドーム常用率(過去 6 ヶ月)は特定相手 54.6-59.0%、不特定相手 65.3-65.9%、またセックス時の併用品はコンドーム 66.6%、水溶性ローション 66.0%で常用率に類似していた。コンドーム購入経験は 36.6%で、購入場所は薬局 20.9%、コンビニ 9.6%、ゲイショップ 4.7%、ハッテン場 4.3%であった。過去 1 年間の HIV 検査受検率は 25.4%、啓発コンドーム受け取り率 45.3%であった。一方、大阪の調査では過去 1 年間の HIV 検査受検率が 31.4%で東京に比べて高く、啓発コンドーム受け取り率も 61.9%と東京に比べて高かった。これらの項目以外には、大阪地区はほぼ東京地区の調査と同様の成績であった。

両地域共にインターネット出会い系サイトの利用が高く、特に大阪では昨年と同項目調査に比べて利用率が高まっていることが示された。新たな出会いの機会となるインターネット出会い系サイトの利用層についてその行動と予防啓発のニーズについて今後検討することが望まれる。

過去 1 年間の HIV 検査受検率は、新宿地区では以前に行った調査 25%と変わっていない。これに比べて大阪では 31%と MASH 大阪が実施した SWITCH での HIV 検査による効果が維持されていた。今後は名古屋、福岡などでも共通した項目調査を展開し、予防啓発・対策へのニーズ、評価を実施する予定である。

A. はじめに

東京および大阪地域における MSM に対する HIV 予防対策の基礎資料とするため、MSM における性行動や HIV に関する知識・情報源、コンドーム使用や抗体検査に関する行動や意識、態度、各地域で実施しているプログラムへの接触などを調査した。東京では新宿 2 丁目および歌舞伎町でのゲイ向けクラブイベント、大阪では堂山における同様のクラブイベントに参加した MSM を対象として質問紙調査を行った。本研究は、当研究班で実施される予防対策プログラムについて、啓発資材の訴求効果やコンドーム常備、常用への啓発効果、HIV 検査受検行動への啓発効果などについて評価していくことを目的としている。調査にあたっては地域の研究協力者である CBO 当事者と相互に意見交換をして実施している。また、調査結果は情報としてコミュニティに還元すると共に、啓発資材、啓発方法の開発、実施に活用する。

B. 調査方法

1. HIV 予防に関する新宿地区のクラブイベント参加者に対する質問紙調査報告

1) 調査日時

2003 年 11 月 28 日、30 日の夜 10 時から翌朝 3 時。

2) 配布・回収状況

新宿歌舞伎町並びに新宿二丁目のクラブイベント

の会場において、調査員が調査趣旨の説明とアンケート協力の依頼を口頭にて行い、同意のした人に質問紙と筆記用具を配布し、回答した質問紙を回収した。2 日間の正確な配布数は不明。回収数は 551 件(268 件、283 件)。

3) 分析対象者

分析対象数 532 件(回収数の 96.6%)。質問紙の回答より MSM と判断したものを分析対象とした。「今までに男性とのセックス経験あり」または「セクシャルティがゲイまたはバイセクシャル」と回答。

2. HIV 予防に関する大阪堂山地区のクラブイベント参加者に対する質問紙調査報告

1) 調査日時

2003 年 10 月 24 日、25 日、31 日、11 月 1 日、8 日、15 日、22 日、23 日の夜 10 時から翌朝 3 時。

2) 配布・回収状況

大阪堂山のクラブイベントの会場において、調査員が調査趣旨の説明とアンケート協力の依頼を口頭にて行い、同意のした人に質問紙と筆記用具を配布し、回答した質問紙を回収した。8 日間の正確な配布数は不明。回収数は 626 件(131 件、119 件、52 件、41 件、61 件、78 件、41 件、103 件)。

3) 分析対象者

分析対象数 611 件(回収数の 97.6%)。昨年 417 件(回収数の 89.3%)質問紙の回答より MSM と判断したものを分析対象とした。「今までに男性とのセック

ス経験あり」または「セクシャリティがゲイまたはバイセクシャル」と回答。

3. 倫理面への配慮

男性同性愛者／両性愛者は、社会からの偏見・差別が強く、調査や啓発活動を進める場合はこれらを配慮する必要がある。本調査においても、研究協力者である当事者 CBO と連携し、質問票については相互に意見交換し、アンケートは CBO の協力のもとに行った。また、協力施設であるクラブやイベント企画者には、CBO が研究の主旨等を説明している。

C. 成績

1. HIV予防に関する新宿地区のクラブイベント参加者に対する質問紙調査報告(表1)

1) 対象者の属性

年齢は、平均(SD)が 26.9(5.8)歳、10 代後半 7.2%、20 代前半 34.0%、20 代後半 24.9%、30 代前半 22.4%、30 代後半 10.2%。居住地は東京都内 63.7%、東京を除く関東 31.8%、その他 4.5%。職業は会社員 44.9%、学生 22.0%、フリーター 14.0%、公務員・団体職員 5.1%、自由業 5.1%。セクシャリティはゲイ 85.3%、バイセクシャル 12.8%。

2) 施設利用状況

ゲイバー 79.4%、ねるとん系ゲイナイト 50.5%、商業系ハッテン場 41.4% (サウナ系 25.3%、マンション系 30.4%)、野外系 11.2%、出会い系サイト 51.6% (PC 出会い系 42.9%、携帯出会い系 31.9%)

3) 性行動(過去 6 カ月間)

男性とのセックス(フェラチオを含む) 96.6%、セックスの相手男性人数については調査せず。アナルセックス 75.7%、アナルセックスの相手人数(n=358)が 1 人 18.2%、2 人 10.9%、3 人 8.1%、4~5 人 9.2%、6~10 人 9.5%、11 人以上 8.1%。

4) コンドーム使用頻度(過去 6 カ月間)

特定相手タチ(n=260)と必ず使用 54.6%、全く不使用 20.4%、無回答 2.3%。特定相手ウケ(n=222)と必ず使用 59.0%、全く不使用 20.3%、無回答 1.8%。不特定相手タチ(n=245)と必ず使用 65.3%、全く不使用 9.0%、無回答 2.0%。不特定相手ウケ(n=205)と必ず使用 65.9%、全く不使用 10.7%、無回答 2.0%。

5) 最後のアナルセックスでのゴム使用頻度

最後のアナル(n=432)でのゴム使用あり 55.3%、なし 22.7%、無回答 22.0%。特定相手との最後のアナルセックス(n=258)でのゴム使用あり 46.9%、なし 25.6%、無回答 27.5%。不特定相手との最後のアナルセックス(n=206)でのゴム使用あり 64.6%、なし 18.0%、無回答 17.5%。

6) セックス時の併用品(過去 6 カ月間)

コンドーム 66.6%、水溶性ローション 66.0%、ラッシュ 48.0%、ゴメオ 14.2%、その他合法ドラッグ 4.4%。

7) コンドーム購入経験(過去 6 カ月間)

購入経験あり 36.6%、購入場所は、ドラッグストア・薬局 20.9%、コンビニ・スーパー 9.6%、ゲイショップ 4.7%、ハッテン場 4.3%、通販・ネットショッピング 0.8%、その他 3.8%。

8) HIV 抗体検査の受検経験(過去 1 年間)

受検あり 25.4% (135/532)、受検場所は、医院病院% (46/532=8.6%)、保健所% (50/532=9.4%)、南新宿検査室% (34/532=6.4%)、6 月名古屋 HIV 検査会% (3/532=0.6%)、その他% (9/532=1.7%)。

9) 南新宿検査室の土日検査の認知

南新宿を知らない 51.4%、南新宿知ってるが土日検査は知らない 21.6%、土日検査を知ってる 26.9%。

10) HIV/STI に関する知識(正答率)

延命治療 60.2%、抗体検査のウィンドウ期 79.5%、STI 感染の相乗作用 61.3%、無症状 STI 85.7%、報告数増加 92.9%。

11) Rainbow Ring の配布するコンドームの受け取り経験(過去 1 年間)

受け取り経験あり 45.3% (1 種類 23.1%、2 種類 8.5%)。種類別には、ゴム1(ハート1)が 17.1%、ゴム2(R2) 7.7%、ゴム3(Sex・青) 7.7%、ゴム4(やる?・緑) 15.2%、ゴム5(ハート2) 7.3%、ゴム6(命) 5.2%、ゴム7(SEX・黄) 6.7%、ゴム8(やる?青) 14.0%、ゴム(おーい) 5.4%、ゴム 10(ロマン) 9.2%、ゴム 11(ひげ) 6.3%。

Rainbow Ring の配布するコンドームに対する好みは、ゴム1(ハート1) 12.4%、ゴム2(R2) 10.5%、ゴム3(Sex・青) 9.4%、ゴム4(やる?・緑) 15.4%、ゴム5(ハート2) 4.7%、ゴム6(命) 4.0%、ゴム7(SEX・黄) 7.3%、ゴム8(やる?青) 19.8%、ゴム(おーい) 2.8%、ゴム 10(ロマン) 9.2%、ゴム 11(ひげ) 7.2%であった。

12) Akta(アクタ)の認知

初めて聞いた 78.7%、聞いたことがある 10.7%、場所を知っている 3.8%、行ったことがある 6.8%。

13) 将来の感染可能性

絶対ない 10.0%、ほとんどない 31.6%、五分五分 28.5%、十分可能性がある 18.3%、分からない 11.5%。エイズへの関心は、ある 81.3%、わからない 12.7%、ない 6.1%。

2. HIV予防に関する大阪堂山地区のクラブイベント参加者に対する質問紙調査報告(表2)

1) 対象者の属性

年齢は、平均(SD)が 28.0(5.4)歳、10 代後半 3.5%、20 代前半 25.9%、20 代後半 31.9%、30 代前半 28.0%、30 代後半 8.7%。居住地は大阪府内 61.7%、大阪を除く近畿 19.2%、その他 19.1%。職業は会社員 48.2%、学生 15.4%、フリーター 10.5%、公務員・団体職員 8.2%。セクシャリティはゲイ 91.2%、バイセクシャル 7.4%。

2) 施設利用状況

ゲイバー80.1%、ねるとん系ゲイナイト 32.7%、商業系ハッテン場 44.6% (サウナ系 35.0%、マンション系 22.5%で上昇)、野外系 11.3%、出会い系サイト 45.7%で上昇(PC 出会い系 34.9%で上昇、携帯出会い系 30.6%で上昇)。

3) 性行動(過去6カ月間)

男性とのセックス(フェラチオを含む)97.7%、セックスの相手男性人数については調査せず。アナルセックス 80.3%、アナルセックスの相手人数(n=197)が1人 9.6%、2人 6.1%、3人 9.6%、4~5人 2.5%、6~10人 6.1%、11人以上 5.1%。

4) コンドーム使用頻度(過去6カ月間)

特定相手タチ(n=348)と必ず使用 46.0%、全く不使用 24.4%、無回答 5.2%。特定相手ウケ(n=310)と必ず使用 39.0%、全く不使用 25.5%、無回答 5.8%。不特定相手タチ(n=302)と必ず使用 58.6%、全く不使用 10.3%、無回答 6.0%。不特定相手ウケ(n=272)と必ず使用 54.0%、全く不使用 12.1%、無回答 6.6%。

4) 最後のアナルセックスでのゴム使用頻度

最後のアナル(n=503)でのゴム使用あり 55.7%、なし 30.4%、無回答 13.9%。特定相手との最後のアナルセックス(n=307)でのゴム使用あり 44.6%、なし 32.6%、無回答 22.8%。不特定相手との最後のアナルセックス(n=238)でのゴム使用あり 63.9%、なし 26.1%、無回答 10.1%。

セックス時の併用品(過去6カ月間)として、コンドーム 71.1%、水溶性ローション 69.5%。

5) コンドーム購入経験(過去6カ月間)

購入経験あり 35.2%、その場所はドラッグストア・薬局 19.1%、コンビニ・スーパー 10.0%、ゲイショップ 7.0%、ハッテン場 4.5%、通販・ネットショッピング 0.7%、その他 2.7%。

6) HIV 抗体検査の受検経験(過去1年間)

受検あり 31.4% (191/608)、受検施設の内訳は医院病院 32.5% (62/608=10.2%)、保健所 49.2% (94/608=15.5%)、木曜夜間 7.9% (15/608=2.5%)、土曜午後 8.4% (16/608=2.6%)、6月名古屋 5.2% (10/608=1.6%)、その他 3.1% (6/608=1.0%)。

7) HIV/STIに関する知識(正答率)

延命治療 60.6%、抗体検査のウィンドウ期 78.2%、STI 感染の相乗作用 67.9%、梅毒感染経路 84.6%、ゴム耐性 51.1%。

8) MASH 大阪の配布するコンドームの受け取り経験(過去1年間)

受け取り経験あり 61.9%、ゲイバーで 37.3%、クラブ・街頭で 32.0%、DISTA(ディスタ)で 6.5%。

MASH 大阪のコミュニティペーパー・SaL+(MASHの地図)の受け取り経験(過去1年間)は、受け取り経験あり 38.0%、ゲイバーで 20.4%、クラブ・街頭で 13.3%、DISTA(ディスタ)で 6.5%。

MASH 大阪のプログラムへの参加経験は、

basement-g18.5%、いずれかの SWITCH16.8%、STI 勉強会 4.3%、Café Prevent4.8%、全く参加なし 73.3%。

9) DISTA(ディスタ)の認知

初めて聞いた 74.0%、聞いたことがある 11.5%、場所を知っている 3.6%、行ったことがある 10.9%

10) 将来の感染可能性

絶対ない 9.9%、ほとんどない 30.2%、五分五分 28.6%、十分可能性がある 19.5%、分からない 11.6%。エイズへの関心は、ある 79.9%、わからない 14.6%、ない 5.5%。

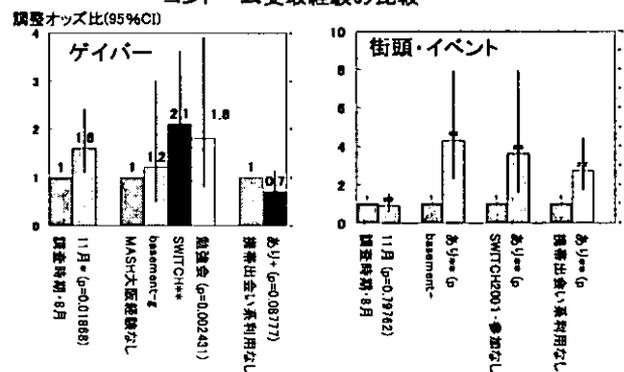
D. 考察

(1) ゲイバー配布と街頭配布

MASH 大阪では 2002 年にゲイバーでのコンドームアウトリーチと街頭・イベントでの配布を実施した。昨年実施した調査について、コンドーム受取経験を MASH 大阪のプログラムやその他の要因との関連を分析した。

どちらも MASH 大阪のプログラムに参加したもので受取率が高いことが示された。また、携帯電話の出会い系サイトを使用した経験の有無別に見ると、ゲイバー配布では差異が無かったが、街頭配布では出会い系を利用しているもので受取が高いことが分かった(図 1)。

図 1 発資材等の普及評価調査(2002年調査から) — コンドーム受取経験の比較



(2) 2003 年アンケート調査

アナルセックス時のコンドーム常用率(過去6ヶ月)は特定相手 54.6-59.0%、不特定相手 65.3-65.9%で、セックス時の併用品としてコンドームを挙げた 66.6%は常用率とほぼ類似していた。また、水溶性ローションも 66.0%とコンドームと同率であった。コンドーム使用を促進させる要因として、従来から言われていることであるが、ローションのニーズが高いことが伺われた。コンドーム購入経験ありは 36.6%で、薬局 20.9%、コンビニ 9.6%、ゲイショップ 4.7%、ハッテン場 4.3%であった。こうした市場でのコンドーム入手を促進するための取り組みについても検討が必

要と思われる。

過去1年間のHIV検査受検率は、新宿地区では以前に行った調査25%と変わっていない。これに対して大阪は31.4%と高い。大阪地域では2000年から2002年まで総合啓発イベントSWITCHを実施し、同時にHIV/STI検査を導入したことの影響と考えられる。われわれの調査によれば、SWITCHの導入によって、1999年の受検率19%は3年後に34%上昇したことが明らかになっている。今回の調査での東京と大阪の違いは、少なくともクラブイベントに参加している対象者においては、大阪ではいまだに受検率が高いことを示しているものと考ええる。なお、東京都南新宿検査・相談室では2002年4月から土日検査が導入されたが、この土日検査について知っているものは30%程度で、特に若い層で認知が低い。

また、啓発コンドーム受け取り率は、東京が45.3%、これに対して大阪は61.9%と高い。大阪は、東京より1年以上早く、コンドームアウトリーチをゲイバー、街頭で実施しており、この点での差異とも思われる。また、東京は大阪に比べて、コミュニティの規模が大きく、その影響も大きい。このことは、大阪でコンドームアウトリーチを開始した2002年には、数ヶ月後には受取率が60%に達していたことからうかがえる。

両地域共にインターネット出会い系サイトの利用が高く、特に大阪では昨年と同項目調査に比べて利用率が高まっていることが示された。新たな出会いの機会となるインターネット出会い系サイトの利用層についてその行動と予防啓発のニーズについて今後検討することが望まれる。

E. 結論

東京、大阪では、クラブイベント参加者を対象に、MSMに対するHIV予防対策の基礎資料とするため、MSMにおける性行動やHIVに関する知識・情報源、コンドーム使用や抗体検査に関する行動や意識、態度、各地域で実施しているプログラムへの接触などを調査した。この調査で得られた情報は、クラブイベント参加者に偏ったものではあるが、コンドームアウトリーチやその他のプログラムを評価する上で有用なも

のであった。今後は他の地域でも同様の調査票を用いた調査を展開し、地域による差異等も明らかにしていきたいと考えている。

F. 研究発表

(和文)

1. 橋本修二、福富和夫、山口拓洋、松山 裕、中村好一、木村博和、市川誠一、木原正博:HIV感染者数とAIDS患者数のシステム分析による中長期展望の試み、日本エイズ学会誌、4(1)、8-16、2002
2. 市川誠一、木原正博、木原雅子、木村博和:HIV感染症疫学の現状、化学療法の領域、2002.4、18(4)、495-501
3. 山口拓洋、橋本修二、川戸美由紀、中村好一、木村博和、市川誠一、松山 裕、木原正博、白阪琢磨:エイズ治療の拠点病院におけるHIV/AIDSの受療者数、日本エイズ学会誌、4(3)、91-95、2002

(口頭発表)-国内

1. 木村博和、市川誠一、鬼塚哲郎、辻宏幸:大阪のMSM向け臨時HIV/STI検査・予防相談の3年目の受検者の特性、第62回日本公衆衛生学会総会、2003.10.24、京都
2. 木村博和、市川誠一、鬼塚哲郎、松原 新、辻宏幸:MSMに対する大阪地域でのコンドームアウトリーチの効果、第17回日本エイズ学会総会、2003.11、神戸
3. 市川誠一、木村博和:国民向けエイズ広報の普及に関する調査、第17回日本エイズ学会総会、2003.11、神戸
4. 橋本修二、川戸美由紀、市川誠一、中村好一、木村博和:エイズ発生動向調査への報告 HIV感染者数の動向とHIV感染者数の推計、日本エイズ学会誌、2003.11、神戸
5. 木村博和、市川誠一、鬼塚哲郎:大阪のMSM向け臨時HIV/STD予防相談・検査の2年目の受検者の特性、日本公衆衛生学会、2002年10月、埼玉29